

組合員相談体制の充実へ

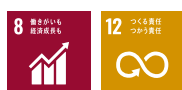
105支店で相続セミナー開催

JAは組合員・利用者の相続に対する不安や悩みを解消するため、組合員・利用者に寄り添った相談体制の構築に力を入れています。その一環として、多くの方に相続について考えてもらえるよう、令和7年度は昨年度よりも会場を増やして、各地区で相続セミナーを行っています。

個別相談・財産診断を通じて、組合員・利用者の皆さま一人一人に合った提案をしていきます。



財産診断の重要性などを学ぶ参加者



貯蔵倉庫活用しタマネギ長期出荷

生産者の農業所得向上を目指す

JAは本年度から、富士市の冷風貯蔵倉庫を活用したタマネギの長期出荷に取り組み、直接買取販売による生産者の所得向上につなげています。

タマネギは主に4地区で栽培され、倉庫を活用しながら産地リレーによる長期供給体制を構築し、流通と販売の強化を図っています。貯蔵で10月まで出荷が可能になり、地場産が少ない時期に出荷することで有利販売につなげます。



職員が冷風貯蔵倉庫へタマネギを貯蔵



組合員の意思反映に向けて

地区本部運営委員会代表者会議を開く

JAは9月3日、令和7年度第1回地区本部運営委員会代表者会議を沼津市で開きました。各地区本部運営委員会の会長・副会長、JA役職員が出席。村松孝規会長(富士地区)が議長となり、新本店建設計画などの報告や各地区から寄せられた意見要望への各事業の対応などを検討しました。

組合員の皆さまの声をJA事業に反映させ、より良いJA運営を進めていきます。



活発な意見交換



医療現場を学び安心の提供へ

共済担当職員が先進医療や治療の経済的負担学ぶ

JAは共済担当職員のがん治療の知識醸成を目的に8月8日と21日、県立静岡がんセンターで視察研修会を開きました。大村幸広常務をはじめライフアドバイザーや複合渉外担当計36人が参加しました。

医師から放射線・陽子線などの先進医療技術を学び、がん治療に伴う経済的負担について知識を深めました。JAは今後も知識向上に努め、お客さま一人一人に寄り添った最適な保障を提案していきます。



熱心に講義のメモをとる参加者



JAふじ伊豆はSDGs「1～17の目標」につながる取り組みを行っています。

各所に記載のマークはSDGs目標アイコンです。

管内生産者が多数入賞

全国・県の品評会や関東の共励会で各賞を受賞



5月から8月にかけて、シイタケや生乳などの品評会・共励会が行われ、管内の生産者の方々が多数入賞されました。 敬称略、()かっこ内は地区名

■第58回全農乾椎茸品評会

農林水産大臣賞：小柳出 勝(伊豆の国)

■第72回全国乾椎茸品評会

林野庁長官賞：朝香 博典(伊豆の国)

■第53回日椎連乾椎茸箱物品品評会

林野庁長官賞：朝香 精一郎(伊豆の国)・飯田 洋(伊豆の国)・朝香 博典(伊豆の国)・堀江 富男(伊豆の国)・石井 猛(伊豆の国)

■第17回関東生乳品質改善共励会

最優秀賞・全農経営管理委員会会長賞：渡邊 謹一(伊豆の国)
優良賞：加藤 孝(なんすん)

■第24回静岡県なし果実品評会

金賞・静岡県知事賞：宮崎 和洋(富士)
銅賞：高橋 康文(富士)

■第4回全国えだまめ選手権

銅賞：三島枝豆出荷組合(三島函南)



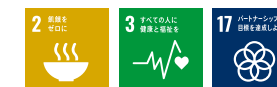
全農乾椎茸品評会で農林水産大臣賞の小柳出さん



全国乾椎茸品評会・日椎連乾椎茸箱物品品評会で林野庁長官賞の朝香さん

災害時物資供給で医療維持へ

JAと中伊豆温泉病院が協定締結



協定書へ署名する梶組合長(左)と安田病院長(中央)

JAふじ伊豆とJA静岡厚生連中伊豆温泉病院は8月5日、大規模災害時における物資供給に関する協定を締結しました。本店で行われた調印式では、梶毅組合長と安田勝彦病院長が協定書に署名しました。

同協定は大規模災害による物流停止時に同院の医療機能を維持するため、当JAが取り扱う食料や飲料、生活用品などを円滑に供給することを目的としています。今後は両方で緊密に連携し、物資供給を通じて同院の運営を支援し、地域に根差したJAとして地域社会に貢献していきます。

梶組合長は「災害時には互いに助け合い、連携し、地域に根差したJAとして地域の発展に励みたい」と話しました。



剣道大会の副賞に特産品提供

青少年の健全育成に賛同

第13回富士山杯争奪少年少女剣道大会が8月23日、24日に御殿場市で行われました。JAは同大会に後援し、副賞として御殿場地区の特産品「ごてんばこしひかり」の最上級米「このはなの恵み」を提供。表彰式で、梶組組合長が入賞チームに目録を贈呈しました。

10月4日には大会の様子を紹介した番組が静岡第一テレビで放送され、JAのCMが流れます。



梶組組合長(右)が入賞チームに副賞の目録を贈呈



親子で学ぶ直売所ツアー5年目

地場農産物の魅力に触れる

富士宮市主催の親子地産地消ツアーを7月31日にう宮～なで開き、10組25人が参加しました。

同店の矢澤優輔課長が地元産野菜の特長や新鮮な野菜の選び方を解説。管理栄養士からは夏野菜の栄養や地産地消のメリットを説明し、レシピ紹介や試食も行いました。参加者は「野菜の選び方や食べ方が勉強になった」と話し、土産の夏野菜に笑顔を見せました。



矢澤課長(右)が参加者に野菜の特長を説明

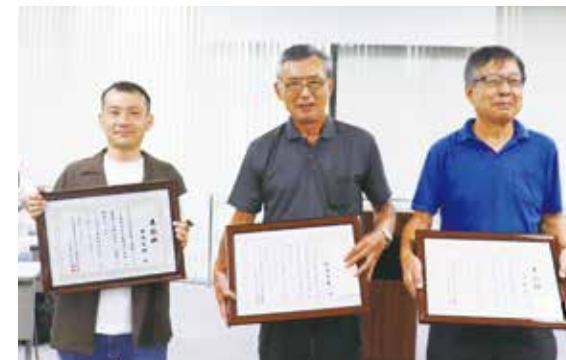


トマトの安定生産と高品質維持へ

三島函南トマト組合が総会を開く

三島函南トマト組合は8月5日、函南支店で令和6年度産の総会を開き、組合員や市場関係者、JA、経済連担当者などが出席しました。

本年度の事業計画では、産地力の維持・向上を図るため、BS資材を活用した猛暑対策や出荷規格の見直しなど、食の安全・安心を提供するための議案を決議しました。その他、優良生産者の表彰が行われ、3人が受賞しました。



左から受賞者の市川慶明さん、柿島孝男さん、満田豊さん



新規就農の課題共有

ニューファーマー地域受入連絡会開く

伊豆の国地区では研修受入農家や行政と協力し、新規就農者の受入を行っています。7月31日にはニューファーマー地域受入連絡会を伊豆の国市で開催。イチゴとミニトマトの研修を終えた就農者2人に修了証書を授与しました。

連絡会では、新規就農者との意見交換会を実施。生産資材の高騰や補助制度など現状の課題を確認した他、他JAの取り組み事例を共有しました。



研修修了証書を手にする就農者(前列中央2人)



地域農業の課題を共有

鈴木澄美議員と壮年部が意見交換

壮年部富士地区本部は8月22日、県議会議員の鈴木澄美氏を招き、意見交換会を開きました。

鈴木議員は事前に部員が提出した質問事項について説明。ジャンボタニシの被害対策や耕作放棄地の現状と対策、静岡茶再生に向けた取り組みなど7つの項目について県の方針を示しました。部員らは実情に基づいた地域農業の課題や要望を伝え、行政の協力を求めました。



部員24人が参加し熱心に意見を述べ合う



ドローンで可変施肥

新技術で米の収量・品質向上を目指す

なんすん地区は8月7日、沼津市原の水稲「きぬむすめ」を栽培するほ場で、ドローンを使って生育状態に応じて肥料の散布量を調整する省力的な追肥の実証試験を始めました。

衛星画像とAI分析による栽培管理支援システムを活用し、ドローンに生育マップを読み込ませ可変施肥を行いました。散布後もシステム内で生育状況を確認し、実装に向けた検証を行います。



ドローンで可変施肥を行うJA職員



レモンブランド化へ栽培技術向上

地元小学校で剪定講習会

あいら伊豆レモン協議会はレモンの栽培技術向上に取り組み、生産拡大とブランド化を目指しています。7月10日には、熱海市立多賀小学校から剪定依頼があった校内のレモンを題材に講習会を開き、会員7人が参加しました。

武剛広トップ営農指導員から、不要な枝を切って風通しと日当たりの良い樹形に整え、危険なトゲは取り除くなどの剪定ポイントを学びました。



トップ営農指導員(右)から剪定のポイントを学ぶ

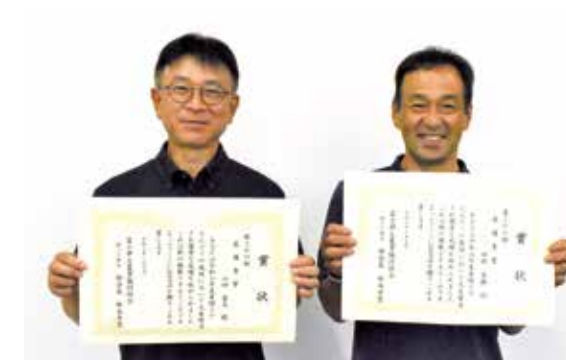


絹さや部会が設立80周年

産地の維持と品質管理へ

伊豆太陽地区本部絹さや部会は令和7年度産で設立80周年を迎えました。

8月5日には、稲取支店で令和6年度産の販売報告会を開き、販売実績や市場の情勢報告を行いました。併せて、優良生産者表彰も行われ、秋さと春さやの最優秀生産者が表彰されました。今後も部会員一丸となり、産地の維持と高品質生産に努めていきます。



最優秀生産者の山田富夫さん(左)と田村英樹さん(右)